

彦根市教育委員会会議録

会議の日	令和 5 年 9 月 28 日(木)			
会議場所	彦根市役所本庁舎 5-1 会議室、5-2 会議室			
出席委員等 5 人中 5 人出席	教育長 教育長職務代理者 委 員	西嶋 良年 本田 啓子 永濱 隆	委 員 委 員	小松 照明 田附 孝子
出席職員 (説明員)	教育部長 前川 学 教育部次長(教育総務課長) 小島 久喜 子ども未来部次長(幼児課長) 前川 昌敏 副参事(博物館副館長、学芸史料課長) 渡辺 恒一 学校教育課長 東野 了賢 学校教育課主幹 井上 崇子 学校 ICT 推進課長 北川 尚樹 学校支援・人権・いじめ対策課長 小磯 浩司 生涯学習課長 小椋 朋子 生涯学習課主幹 林 宏 博物館管理課長 野村 雅之 教育研究所長 清水 貴博 学校給食センター所長 今井 和宏 図書館長 田中 淑介 図書館主幹 鈴木 康浩 広野教育集会所長 中江 淳展			
会議次第	1 開 会 午後 1 時 30 分 2 議 題 内 容 別添のとおり 議案第 41 号 彦根市地域スポーツ・文化クラブ活動整備推進協議会設置要綱を定めることに ついて (学校教育課) 3 その他 内 容 別添のとおり 4 閉 会 午後 2 時 36 分			

1 開 会

教育長 ただ今から教育委員会会議を開会します。

本日提案している議題は、1 件です。

本日の議事の進行につきましては、「教育長報告」の後、4 件の報告事項を説明させていただきます。その後、議案第 41 号の審議をいただき、その後、「各所属の取組事項について」の質疑を行い、「その他」で教育委員会の所管事項について、委員からのご質問をいただきます。

本日の議事進行につきまして、ご異議はありませんか。

各委員 なし。

教育長 それでは、まず私から「教育長報告」をさせていただきます。

9 月 4 日月曜日ですが、9 月市議会が開会となりました。自席で傍聴をさせていただきました。

9 月 11 日月曜日から 9 月 13 日水曜日までの 3 日間、個人質問が行われましたので、出席して、答弁をさせていただきました。

9 月 17 日日曜日ですが、彦根市美術展覧会入賞者の表彰式がひこね市文化プラザで行われましたので、出席させていただきました。

9 月 19 日火曜日、予算常任委員会が本庁で行われましたので、出席をしました。

9 月 20 日水曜日、福祉病院教育常任委員会が本庁で行われましたので、出席をしました。

9 月 26 日火曜日ですが、追加議案が上程され、本会議が開かれましたので、自席で傍聴をさせていただきました。

9 月 28 日木曜日ですが、9 月の教育委員会会議となっています。

報告は以上です。何かご質問やご意見がありましたらお願いします。

各委員 なし。

2 前回会議録の承認

3 報告事項

教育長 次第 3「報告事項」に入らせていただきます。

「令和 5 年 9 月市議会について」説明をお願いします。

教育部次長から報告がありました。

田附委員 17 ページの質問への答弁のところで2つほど質問したいと思います。運営費が必要になりますという答弁の中で、内容としてはスポーツ安全保険加入費とありますが、土日の部活の地域移行の中で、けがとかの対応はスポーツセンターの保険が関わっているのか、給付対象となっているのかどうか、お聞きしたいです。もう1つは、保護者負担が1,000円ぐらいとあるのですが、県とか国とかの補助金がだんだんなくなった場合、増額とかどういうふうに考えておられるか、お聞きしたいと思います。

学校教育課長 1つ目の質問の保険につきまして、現在行っています稲枝中学校区での事業では、委託事業全体の中からスポーツ安全保険に、参加生徒一人当たり年間800円が入り、土日にけが等をした場合は、そのスポーツ安全保険の中で対応することになります。したがって、平日の学校安全保険の適用外となります。2つ目の受益者負担の部分ですが、これにつきましても、稲枝中学校区での事業の場合は、一人当たり月額1,000円の負担をお願いしていますが、この中に先程の保険料や施設使用料はかかっていません。指導者への支払いということに基づいておりますので、ご理解の上この額をいただいています。これにつきましても、今後、指導者の回数、施設使用の状況によって額が定まってくるかと思っており、まだ未確定のところですが、ただ、補助をいただいているのでこのような運用ができていますが、補助がなくなってしまった場合には、自立していかなければならないという状況にあると思っています。

小松委員 個人情報に関わるなら結構ですが、今回の新人議員である戸崎議員は、非常に興味を持ってこの特別支援教育についての質問をされています。戸崎議員は、こういう特別支援に関わっていて、そういう意識を持って質問をされているのか。戸崎議員が以前何をされていたのかわかりませんが、特別支援についての意識がものすごく高い。今後もこういうことについて研究をされるような人が今回議員になられたのだと、この質問を聞いていました。どういう考えをお持ちの議員なのか、わかれば教えて欲しいです。

学校支援・人権・いじめ対策課長 今回の戸崎議員の質問については、戸崎議員ご自身が、小中学校2校に訪問されて、いろいろ話を聞かれたのを基にして質問されたと伺っています。特別支援教育に明るいかどうかについては、存じ上げておりません。

教育部長 補足させてもらおうと、同じ会派に、非常に福祉部門に明るい小川良則議員がおられまして、その方からも情報をもらっておられるのではないかと考えています。

永瀆委員 森野議員が放課後児童クラブでの昼食提供について質問されています。国からの通知を受けて、実際どのように考えているか教えてください。

生涯学習課長 国の方から先進事例の紹介も含めて、放課後児童クラブで昼食を提供することについて妨げるものではないという通知が出されたことは事実として、それを受けて議員が質問をされています。通知自体は彦根市でも受けていますし、その確認はしています。ただ、彦根市でそれをしていくかどうかについては、「近い将来、食事提供の実現は可能か」という質問にお答えしていますけれども、まずは食物アレルギーの問題とか、それから感染症、食中毒の発生防止の対応とか、あとは物理的な弁当の受け渡しとか、保管場所とか、かなりいろいろな課題があるということを認識していますので、現段階では実施については考えていないとお答えしています。

永瀆委員 放課後児童クラブが昼食を出すことには、経験も含めて難しいかなと思っていて、出せたとしても、言われた通り、やっぱりアレルギーが問題になると思います。学校でしたら、各学校である程度取り決めをしているが、それが放課後児童クラブでできるのか。先生が、地域の方にそれを求めるのはまず不可能なので、やめたほうがよいという個人的な意見です。

本田職務代理者 愛知県発のラーケーションですが、国がどうこうというのではなく、愛知県が提案したということですよね。メリットもあるかもしれませんが、デメリットの方が絶対多いと思って、見ていました。今後、他の動向を見て、彦根市でもあったほうがよいとなるのでしょうか。ないと私は思っていますが。

学校教育課長 議員からの質問への答弁通りですが、動向については注視をしていかなければならないと思っています。まだ、導入されてからの成果、効果、あるいはマイナス課題というのも見えてないところが多いので、こちらで予想している現段階で一般的に予想されていることを答弁していますけれども、今後も「注視していきたいと考えております」と回答しています。

教育長 次に「彦根城博物館内設備更新工事に伴う長期休館について」説明をお願いします。

彦根城博物館 管理課長から報告がありました。

小松委員 私も以前、スライディングウォールを見たことがあるが、今回入れられる設備は従来のものと何が変わるのか。

彦根城博物館管理課長 まず、材質について、今までは木製の壁になっていたのですが、今度は

軽量スチール製の壁になるほか、気密性を保つ構造として今回の工事の中で一番効果が高いものは、ガスケットというパッキンのようなもので隙間を埋めるような構造になります。今は上下に隙間がすごく空いているという感じになっているのですが、そのガスケットを使用することで、天井や床とスライディングウォールとの間の隙間をかなりなくす構造になっています。

教育長 次に「彦根市立小学校における給食調理業務委託事業者選定に係る公募型プロポーザルの実施について」説明をお願いします。

学校給食センター所長から報告がありました。

小松委員 これに参加できる資格は、彦根市建設工事等入札参加資格者登録に関する規程に基づき登録されている業者で、対象としては別に滋賀県に限ってではなくて、全国レベルでプロポーザルに申し込むことができるもので、規模の問題とか、そういう制約はあるのか。

学校給食センター所長 全国規模の事業者がほとんどです。今回の公募で、すでに3業者ほど現地説明会に来られましたが、すべて全国規模の事業者です。

永瀆委員 業者を選定することになりますが、実際に調理をされる方は雇用した会社の方針にもよるのでしょうか、今働いておられる方を継続雇用することが今までの小学校でも一般的だったので、その部分を教えて欲しいです。

学校給食センター所長 これまで事例から、業者が例えば変わった場合、今回のプロポーザルのパターンですと、それまで勤めていた方がそのまま次の業者の従業員となってその学校に入られるというケースが多いです。ちなみに、地元雇用につきましても、申請業者からの提案で大体どこの業者も地元雇用を優先しますという提案をされています。

教育長 次に「図書館トイレの改修工事に伴う臨時休館について」説明をお願いします。

図書館長から報告がありました。

小松委員 今の図書館のトイレは非常に狭い。今回の改修の中で、障害者用の車椅子トイレのスペースなど、そういうところまで改修されるのか。改修の内容というのはどういうものか。

図書館主幹 今の図書館にも、車椅子の方とか障害者用のトイレについては、廊下を挟んで反対側にあります。そちらにつきましても、今回改修をさせていただく予定です。スペース的に場所的にあの場所しかありませんので、あの中で改修し、本庁にあるトイレのように、

明るくて清潔なトイレに改修したいと考えています。

4 議題

議案第 41 号 彦根市地域スポーツ・文化クラブ活動整備推進協議会設置要綱を定めることについて

学校教育課長から説明がありました。

永瀆委員 推進協議会の委員の任命について、運動系と文化系の代表者ということで、スポーツ協会とか少年少女吹奏楽団の代表者とかになっています。中学校では、文化系のクラブ活動の中で吹奏楽部が多分一番多いということで、その吹奏楽団の代表者としているのかと思いますが、これは固定されるのか、それとも文化系の各部で年次で回していくのか。ここを吹奏楽団で確定させている表現に少し違和感を覚えます。スポーツ協会の代表というのはスポーツ全般ですが、文化系のクラブ活動の代表者としては少し不適格だなと。例えば、書道部や家庭科的なクラブもあると思うので、広く交代で回すというふうにしないと吹奏楽団だけというのはおかしいと思います。

学校教育課長 ご意見いただいた通りだと思いますが、ただ、現状として、文化クラブの中で構成団体を持っているところがここしかないということです。まずは、今年度この形で進めていく中で市の部局として文化関係も入っていただいていますので、そこからのアドバイスを受けてさらに拡充していく必要があると思っています。

永瀆委員 彦根市に限らず、滋賀県の中でそういう活動団体があるのであれば、文化系の代表者として広げておいた方が、表現としてはよいと思います。1 回決まったら、必ずその代表組織からしか選べないということであれば、団体が変わる度に要綱を変えて、代表者を変えていく、そういうことができるのであれば了解します。

学校教育課長 協議会の設置要綱につきましては、今年度作ったからといってずっと継続するものということではありませんし、随時見直していく必要があると思います。ご意見いただいた中で、今回準備委員会を改め整備推進協議会とした時に、まずはその有識者として、大学の先生に入っていただくということで、彦根市が持っているノウハウだけではなくて他市町のノウハウ、あるいは県外でのノウハウもご協議いただく中で、さらに充実させていきたいと考えています。

小松委員 中学校の休日部活動の地域移行については、全国的にその事例はあるけれども広げて

いくのは難しい。費用の問題、あるいはその指導者の確保の問題、それは共通した課題でこういう難しい課題があるのに、今回こういう協議会を設置するというのはどこからの指示なのか。この間全国規模での討論会をした時に、文科省もはっきりした方針が出てないのではないかと思います。だから、方針もないところに彦根市だけが協議会を作るのか、これは全国どこの自治体もこういう協議会を作って地域移行を検討しなさい、という指示がどこから来ているのか。指示はないけれどもこれはもう独自でやっているのか、彦根市の協議会の位置付けそのものを教えて欲しい。この協議会を作っていろいろな委員を集めたとしても、根本的なところが解決しない限り、この推進協議会がなかなか進まないのではないかと私は思っています。だから、国の方針の明確化がない中で、なぜ急いでこのような委員会を作るようになったのか、そこを教えて欲しい。私はまだ早いのではないかと思います。

学校教育課長 この協議会を設置する経緯としましては、昨年度の段階で準備委員会をしていたところで、国が令和8年度までに進めていくという方針の中で予算立てをされ、そこまでは後押しがある形で市として受けとめていました。その中で、今年度この推進協議会という形をとれば、国、県から各3分の1の補助をもらって行うことができるということがありましたので、難しい状況ではあると準備委員会の中でも意見が出ていましたが、進めていって検討しようということになり、その方向で取り組んでいます。

小松委員 その考え方は彦根市だけか。滋賀県全市、全国的にはそういう考えなのか。

学校教育課長 滋賀県内で、現在こちらで把握しているところでは、8つの自治体がこのことに取り組んでいると聞いています。ただし、その取り組み方につきましては、稲枝中学校区のように委託事業形式を取り入れているものや、協議会そのものだけをしている事業、そういう協議会を設けて研究を進めていくことにとどめている自治体など、様々にあると聞いています。また全国に広げますともっと多様で、例えば自治体単位で市独自で進めていくという形を自治体や市が中心となりながら、補助をいただいている状況です。時間があまりありませんので、その間に整えるところだけ整えて、令和8年度の後半からスタートするというような自治体もあって、全国的には様々な状況です。

小松委員 この協議会で進めるというルートが決まったのであれば、進めてもらったらよいですが、器だけ作って内容を進めようとしたらなかなか進まず、結局は協議会の委員さんが困ってしまう、というようなことにならないように、中身の部分で何をするのかと決めていかないと。こういうことを進めるには、泥臭い活動をしないと進んでいかないと思います。だから、

協議会の中に大学の代表とかいろんな代表の方が入りますけれども、なかなか綺麗ごとでは済まない。教育委員会や学校教育課の担当する事務員が1人苦勞して困る。以前からそういうことがあったので、そういうことにならないように、ぜひ中身を見てやっていって欲しい。難しいテーマだと思いますが。

本田職務代理者 去年、井上先生が稲枝中学校の例をもって、今こういう状況だとか国の動向とかを私たちに説明してくれました。その時に、稲枝以外の地域でも、稲枝でやっていることがモデルになるかということ必ずしもそうではなくて、それぞれの地域とか学校の規模とか、いろいろなことに関わるので、学校教育課だけでどうこうしていくのはちょっと難しいのではないかなというような話が出たように記憶しています。国の方向で働き方改革だけではなくて、子どもたちのこれからのスポーツにも関わっていることなので、もっともっと協議していかなくてはいけない。初めは、国は令和6年度とか7年度とか言っていて、次年度に延ばすことを検討する機会を作ったのかなと思っていました。だから、もしかすると無駄なことをやることになるかもわかりませんが、少なくとも、スポーツ関係だけではなくていろいろな学校関係の幅広い委員を持って協議会を立ち上げたのかなと、説明を聞いて思いました。

教育長 令和5年度から7年度の3年間を改革推進期間として、文化庁、スポーツ庁が示しています。教職員の働き方、学校の働き方改革というところの課題があって出てきたことではあります。少子化が急激に進んでいて、子どもたちの文化スポーツ環境がこれからどうなるかというような課題もありますので、彦根市教育委員会としてはこの3年間で研究をして、令和8年度からやっていきたいというふうに考えています。

永瀆委員 ウェブ上での全国教育委員研究会で、休日のクラブ活動がテーマで、4市町村の1グループに入って議論していたのですが、協議会を立ち上げて実際機能している市町村もありました。残りの2つはこれからどうやって進めていこうかという状況で、どうやっているか教えて欲しいと言われましたので、彦根市としては、事前にもらった資料をもとに、これには歴史があって地域の協力があってできたものと話しました。ただ、スポーツ庁にしても文化庁にしても、予算の中で梯子を外したような金額、1桁増えたのにまた戻ったということについて、座長に対して、「何かお金を出してもらわないと動けないし、継続もできない」と参加者全員のまとめの会で言って欲しいとお願いしました。そのスポーツ庁とか文化庁の担当者には相手にもされてないと思いますが、あのような予算ではとても無理です。根室市は、立ち上げただけで何もできていないということでした。現実的なところで、どれぐらい

のお金が必要ならできるのかわかりませんが、今の額だと、小学校とか中学校の数で割ったら、1校当たり市町村あたりいくらになりますか。もう微々たるお金で、3分の1補助ということで国がお金を出しても、その残りについて市町村の財政状況によっては出せない。こういうことを国が言うのであれば、「国が全額出せ」と座長はさすがに言われませんでしたけど、全国の現状を聞いていると、地域移行しているところもあれば全く手つかずのところもあったというのが実感です。個人的な意見ですが、民間とかの協力を得ると前から言っていますが、早い者勝ちです。地域の方だけで賄えるもの、例えば水泳とかは民間に協力をお願いするといった場合に、早く推進協議会を設置しておく方が絶対よいと思います。この協議会の立ち上げは無駄に終わるかどうかわかりませんが、これが無駄に終わったとしても何らかの形、違う形で次につなげるようなものになればよいと思います。早めに協議会ができないといろいろな調整とかできないですし、スポーツ組織はその調整役の1つになると思います。

議案第41号は原案のとおり承認されました。

5 各所属の取組事項について

各委員 なし

6 その他

小松委員 今世間で言われている、AIを使ったChatGPTの説明会が、9月14日に商工会議所で2時間ほどありまして、講師には滋賀大学データサイエンス学部の教授、それと中央町の市役所中央町別館4階にある近江テックアカデミーの役員の方など3名がおられて、このChatGPTで一体何ができるかということの講演でした。私は、以前からこれに興味を持っていたので聞きに行ったのですが、結論から言うと、やはり教育の中にも広がっていくのではないかと考えています。最後に先生に質問したのですが、現状では小中学校で使って広がっていく状況ではなく、逆にいろいろな規制があると。特に個人情報の関係あるけれども、例えば、先生がやっている採点作業や先生方とのいろいろなディスカッションそういうもの、いろいろな質問に対して日本語で対話形式で返ってくるというような部分とか。この文章でおかしいところはないですかって言ったら、そういうことを短時間に返事するということは学校の中でもやがて来るのではないかと思います。こういうものが出て来て、今の校務支援ソフトというのが働き方改革の1つの道具として導入されていますが、このChatGPTもICTの1つとし

てどういうふうにするかという問題はあるんですが、次にどんどん新しいものが入ってくるのでなかなか大変だと思いますが、少し意識を変えて、うまく使えるところは使っていないといけないという感じで、取り入れていって欲しいと思います。

教育長 以上で本日の会議を閉会します。

10月の会議は、10月26日木曜日、午後1時30分から本庁舎5階5-1、5-2会議室で開催します。皆さんお疲れ様でした。